



第218号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長 後藤昭彦
編集人 会報編集委員長 長みゆみ 川まゆ 須坂新聞社
印刷所 須坂新聞社

教育会の意義

上高井教育会理事長 後藤 昭彦



上高井教育会は 明治十八年二月十八日、上高井郡私立教育会として会員五十八名で発足し、爾来百二十七年の長い年月を経て今日に至っています。

昭和四十九年には社団法人に組織変更した上高井教育会ですが、平成二十年の公益法人制度改革関連三法の施行に伴い、公益社団法人が一般社団法人かの選択を迫られました。

本教育会では税制や保有財産の規制等を比較検討し、一般社団法人を選択しました。そして、一般社団法人の認可に向け、困惑しつつも鋭意努力し、移行手続を進めてきました。特に教育会事務局長の原田武夫先

生には二十三年度理事長就任以来、前理事長の片桐秀一先生と共に移行申請に深く関わっていただき、平成二十五年四月一日付けで一般社団法人上高井教育会として正式に登録できました。 今回の一般社団法人化に伴い、上高井教育会はこれまで以上に公益目的事業が求められ、地域の教育発展への貢献が期待されます。 このような状況の中、教職員の不祥事に端を発し、体罰問題なども含め、子どもたちや保護者、地域の信頼を損なう事案が続きました。不祥事や非遵行が報じられる度に、私たち教職員はこれまで積み重ねてきた教育が否定されるような切ない思いに駆られます。 そこで、私たちは不祥事は絶

うな風通しのよい教師集団にしたいかなければならないと思います。そして、何よりも、私たち自身が日々の実践に自信を持って取り組まなければ、信頼される教育には結びついてこないと言えましょう。 本教育会の先輩である神林信雄先生は、上高井教育百周年記念誌発刊に寄せ、次のような提言をされています。 「教育も子どもという人間を教師がどう見るかということが、大事な事柄の一つであるが、その見方の深さによって考え方も違ってくるし、子ども一人のみにならず、教育全般の在り方にも通じ、対応の仕方も違ってくるのである。したがって教師の力量に期待されるどころ実には大きいわけで、それに応えなければならぬ。しかし、教師個人では力に限りがある。互いに知恵を出し合い、切磋琢磨していく場が教育会である。そこで人生観や力量が飛躍的に深め且つ高められていくのである。」 神林先生の提言は、子ども一



人一人に目を向けた教育、子ども一人の目から出発する教育、長野県教育で大事にしてきた指導法でもあります。個人では限りがあるのでお互いに知恵を出し合うことで我々の力量が更に高まる、まさに教育会の存在意義を指摘されています。 全員参画しての研究委員会 は本教育会の特徴的研修の一つです。また、同好の士が集う同好会は会員からの申し出により「上高井清掃に学ぶ会」を新設し十八になりました。 上高井教育会は時代に相応するために、一般社団法人として新たな一歩を踏み出したわけですが、改めて本教育会の先輩の至言をかみしめ、私たち教育会会員の指標としたいもので (相森中)

教育会だより

- 4 1 一般社団法人上高井教育会発足
5 第一回学校代表者会
8 信教代議員選挙
10 第一回理事会
18 第二回理事会
22 研究委員長会
24 教育会会計監査会
25 第二回学校代表者会
5 1 研究総委員会研究委員会・同好会 世長会同好会発足(常盤中)
18 一般社団法人上高井教育会 定時社員総会
○平成25年新理事の承認
○平成24年度会務報告決算の承認
○会員意見発表
小布施中 宮入勝彦教諭
「教科指導におけるパタフライマップの可能性について」
○講演伏木久始先生
「学ぶ側から授業と家庭学習を 問い直す」
22 新任者教育懇談会
23 上高井賛助会員会総会
24 研究推進委員会
28 教研学校代表者会
6 3 第三回理事会
7 第三回学校代表者会
14 同好会②
7 6 同好会③
19 上高井教育会報第218号発行 研究委員長会

子どもと共に創る授業 ～主体的に学ぶ姿をめざし～

研究委員長会会長 望月千恵子



信州大 学教育学部教授の伏木久始先生を中心講師にお願いして、三年目の研究となります。

昨年度までの研究を振り返りながら、今年度も引き続き、研究課題を「子どもと共に創る授業のあり方の追究」としました。

伏木先生は講演で、先生と子どもたちが授業を創る時に大事な部分の一つ「家庭での学習課題」と「学校での授業」がどのように繋がっているべきなのか、という視点から子どもと創る授業を考えたいと提案されました。「理解できた、もっとトライしてみたい、もっと調べてみたいな」そして、宿題が終わった後に「次の授業が楽しみだな」こんな声が聞けたら最高」と。また、子どもにとって、学ぶ意味・やることの意味の価値が感じられること、そして学ぶ場の居心地が良いことを感じさせるような環境づくりが必要であり、学ぶ側の精神状

態・学習意欲を活性化することが大切と言われています。

今年度各委員会は、日々の授業で子どもたちの「知りたい、わかった、できた、もっとやりたい、もっと調べてみたい」という主体的に学ぶ姿をめざし、三つの共通項目をすえ、研究をスタートしています。各委員会で各教科等の独自性を生かし、子どもに寄り添い『こんなことをやりたい』ということを一歩大事にして研究をすすめています。私たちが一人一人が、郡研を自分事として捉え、積極的に関わり共に学んでまいります。

(日野小)



本校の中核活動

「のびゆく」の時間

栗ガ丘小学校

栗ガ丘小学校では、総合的な学習「のびゆく」の時間に、小布施町の特性を生かした活動を行っています。昨年度の取り組みと子どもたちの様子を紹介します。

三年「ウオークラリー」

三年生では四回にわたって小布施町の探検(ウオークラリー)を行いました。あらかじめ見学予定の場所について調べたり、班ごとにチェックポイントでクイズを解きながらまわったりしたので、それぞれ思い出に残るウオークラリーになったようです。また、子どもたちは小布施町に住んでいても知らないところや意外と多く、実際に出かけたりその場所や地域の方にお話をしていたりすることなどで、たくさん発見をし、新たな魅力に気がつくことができました。

四年「小布施丸なす」

四年生は例年、小布施丸ナス作りに挑戦しています。昨年度は土作りから始めてみました。は多少抵抗のあった子どもたちでしたが、数日置いた土が真っ白になっていく様子は興味津々で観察していました。自然がいつの間で育っているはずの子どもたちですが、自分たちの手で育てているものが生長していく様子を観察していくのはまた格別で、「紫の花が咲いた」「小さな実が付いた」といろいろな発見を楽しみながら育てることができました。収穫したナスは、チーズ焼きにしてみました。これまでにナスは苦手だと言っていた子どもも「今年、家で作ってみる」と喜んでいました。

五年「アグリサーバー」

一学期に信州大学工学部の先生や学生さんからアグリサーバーの仕組みについて教えていただきました。そして、ブラムリーアップルの成長をインターネットのライブカメラを通して観察したり、調べ学習を行ったりしてきました。たくさん質問をもって農家へ見学に行き、実際に稼働するアグリサーバーのカメラを見ることもできました。ブラムリーアップルは料理用のりんごですが、生食をしたところ、予想より甘くて、驚きました。学習のまとめとしてブラムリーアップル新聞を作ったり、ジャムを作ったり味わたりしました。

六年「巴錦の栽培」

六年生は、小布施に伝わる名菊「北斎巴錦」を育てています。きれいな花として小布施で大切に守られてきたこの菊に、名前がつけられたのは江戸時代のことです。江戸に向かう途中小布施に寄った加賀の前田侯によって「巴の錦」と名付けられ、以来「殿様菊」として大切に守られてきました。時代は流れ、戦争や若者の地元離れなどがあって、一時巴錦が絶滅の危機にさらされた。しかし、小布施町巴錦保存会の皆さんの尽力によって北



斎巴錦が蘇ったのです。そして、北斎巴錦を小布施に広めようと、平成十三年度から小学校でも栽培に取り組みようになりました。以来、毎年六年生全員で栽培しています。大切に育てた北斎巴錦は、秋になると小布施駅や町の図書館など、町内各地に展示させていただき、一人一人責任を持って水の管理をし、多くの方に楽しんでいただいています。

小布施の豊かな自然・文化・歴史との関わりや人とのふれあいを通して、学びを深めている栗ガ丘小学校の子どもたちです。

(熊谷沙織)

同好会で職能の向上を

同好会会長 岡田哲夫



高度情報化や核家族化等の社会の変化に伴い、教育課題が複雑化している

現在、私たち教師に求められるのは、「教育とは何か」という根本的な問いへの答えとモラルを含めた情報教育の在り方など時代の進歩に即した知識や技能の習得であります。私たちは常に学び続けなければ

対応できないということを、改めて感じております。

同好会のなかで、先輩の先生に、「思いやりという言葉を理解するには、電車のなかで、老人に席を譲った高校生の姿など、具体的な場面を幾つも集めて考えることが大事だよ」と教えていただいたことが今も忘れられません。

同好会は、教育会員を中心に同好の者が集まり、教職員としての職能向上を図ることを目

的としております。今年度は十八の同好会が設置され、運営費は教育会の事業費によって賄われます。複数の同好会に参加することも可能でし、会員以外の方も同好会に入ることがございます。

また、夏休みの同好会は、ミ二大学を志向しており、会員以外の一般の方々にも多数参加していただけるように呼びかけしております。

同好会を通して、専門性が高まると同時に、多くの方々と接することをご期待申し上げます。(高山中)

「掃除に学ぶ会」同好会発足

会長 中村文成・副会長 倉田みゆき

今年度、十二名の会員を擁し、掃除に学ぶ会が発足いたしました。教育会の同好会としては、お隣の下高井地区に次いで二番目の掃除に学ぶ会の誕生です。

「小布施掃除に学ぶ会」や「長野便教会」の活動に参加する中でトイレ掃除の奥深さを実感した有志が、「上高井のお掃除文化活性化のためにも、教育会の同好会として立ち上げたい」と熱望したことが発端と

なりました。

掃除に学ぶ会は禅にも通じる世界だと個人的に思います。一心に対象と向きあい、一体感を感じ、磨き続けるほどに心が澄んでいく……。

掃除後に光を取り戻して嬉しそうに輝くトイレを見ていると、子ども達に対しても「どう関わったらこの子が本来持っている輝きが出てくるだろう」と考えられるようになってきました。清掃後の気持ちの良い、

凛とした清浄感を味わううちに、その場の空気が人に与える影響の大きさも分かってきた気がします。



清掃主任の先生方はもちろん、どなたでも大歓迎です。六月に高山小学校で掃除に学ぶ会を行います。七月には高山中で行われる長野県中学校清掃サミットに参加する予定です。(高山中・小山小)

本校の宝 ⑥ 須坂小学校

鼓笛

「先生、ぼくトランペットやりたいんだ。その時先生、見に来てくれる？」と五年生の男の子が廊下を歩きながら話しかけてきました。

須坂小学校の鼓笛は六年生全員が参加し、五年時の十一月に引き継ぎます。そして、たった四カ月足らずの練習で、四月の入学式で一年生の退場の音楽を演奏するのが、みなさんに聞いていただく初演奏となります。この男の子は、入学式の退場の演奏、音楽会の演奏、そして運動会のマーチング演奏など、下の学年の時からずっと見てきて、早く自分もあんな風にかっこよく演奏したいと思ってきたようです。現に今年の六年生も昨年の十一月に鼓笛を引き継ぐときには、



「ぼくのお母さんはクラリネットをやっていたんだって」と話す子もいます。須坂小の鼓笛が始まったのは、昭和四十年です。かつては児童数も多く、バトントアラヤーリコーダーパートもありました。ですから、須坂小の卒業生はみんな鼓笛を経験しているのです。

毎年えびす講の時、芝宮境内で演奏を行っています。その演奏を聴いていた二十〜三十代の女性が「あ、この曲、私もやったよ。」と言いました。「一番最初にやる練習曲みたいな曲だね。」と話していました。鼓笛は須坂小学校で大切に受け継がれてきて、今も子どもたちがあこがれたり誇りを持ってたりする大切な宝だと思います。(宮澤 浩)

ツバメ来訪

鬼石喜明

今年もツバメが我が家を訪ねてくれている。それを見ると、ふるさと(静岡)の実家を思い出す。何十年前も前の話だが、ツバメの巣の作りかけを見つけては、私の母は「ごめんね、ごめんね」と言いながら箒の柄で巣を落としていた。山の中にある私の家の周りには、二羽もの青大将がうじゃうじゃいて、卵や雛がいつも犠牲になっていたからだ。「食べられてしまう位なら、生む前に巣を壊してあげた方がいい」と言っていたが、壊されても壊されても、ツバメは巣を作り始める。我が子のために決してあきらめず巣作りをくり返すツバメの行動が、「ごめんね」という母の言葉となった。



須坂に来て、りんご農家の方と話をした。木の剪定に始まり、摘花、摘果、葉摘みなど、数え切れないほどの手間ひまかけ

りんごを作っていることを知ったからだ。それまで、りんご農

家って、苗木さえ植えておけば、秋には実を取って売ればいいんだから、ずいぶん楽な商売だなと思っていた私は、顔から火が出た。

ずくを惜しまず、愛情と手間をかけて育てていくこと、何事でも大事なものは同じなんだなあと実感しながら、毎朝、摘花を終えたりんご畑の上を歩き交うツバメを眺めている。

(高山中)

清涼談義



カット 豊洲小内村ひとみ

一学期運動会へのチャレンジ

桜井直子

今年度森上小では、運動会を初めて一学期に行う挑戦をした。六月十五日の運動会に向け体育係から基本計画案が示されたのは、四月十日の職員会だった。年度当初の様々な校務や行事、出会った子どもたちとの生活も始まったばかりで、今まで経験してきた秋の運動会の段

取りを逆算し考えても、なかなか実感が湧かない中で準備が始まった。

しかし、体育係のリーダーシップのもと、全校体育での練習や放課後の校庭整備を着々と進め、特別時間割が始まる頃には全校の気持ちが運動会に向けて確実にまとまり、動き出し



梅雨時の天候、台風三号の進路、高湿度による熱中症対策など、この時期なりの心配事もあったが、運動会当日は天候にも恵まれ、児童全員が参加し、地域やPTAの方々にも支えていただきながら運動会を行うことができた。

入学して二カ月たらずの一年生の弾けるような笑顔、見る者の心を動かした力強い組体操、全力を出し取り組む子どもたちの姿が校庭いっぱい輝いた運動会になった。

運動会を終え、子どもたち自身も感じている成長の手応えを自信にして、今後の学校生活をさらに充実させていきたい。

(森上小)

編集後記

平成二十五年度、会報二二八号を発行し、無事会員各位にお配りすることができました。お忙しい中、原稿をお寄せいただいた会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

これまでの良き伝統を継承しつつ、多くの会員の皆様に親しみを持ってお読みいただけるよう、これからも活動してい

たいと思います。感想や改善すべき点など、率直なご意見をいただけたら幸いです。何かありましたら、各委員までご連絡ください。

- 委員長 宮川まゆみ(豊洲小)
- 副委員長 西原秀明(仁礼小)
- 委員 桜井直子(森上小)
- 高橋美津子(旭ヶ丘小)
- 廣田杏奈(井上小)
- 荻原実(仁礼小)
- 山崎史(東中)
- 浅野恵子(高山中)

平成25年度 県外視察者名簿 (敬称略)					
	学校名	氏名	視察目的・テーマ・内容等	視察方面	実施時期
1	日滝小	関谷 敏	小学校英語活動の実際	筑波大附属小学校	2月中旬
2	日滝小	宮 嵩 秀文	一人一人の学習を深める授業研究	富山県 堀川小学校	5月31日
3	日野小	望月千恵子	教育課程編成について 授業参観・授業研究会	大阪教育大附属小学校	2学期
4	井上小	国語科研究委員会6名	授業のユニバーサルデザインの研究「全国大会」	筑波大附属小学校	8/17・18
5	小布施中	中井 光 一	宇宙開発の研究や開発の現場を見学し、理科の教科指導に活かす	筑波方面	8月
6	高山中	松山由美	コミュニケーション教育の現在とコミュニケーションワークショップの方法論について	香川県	8月
7	高山中	新井孝之	郡研の授業に向けて、水平社宣言の研修と京都柳原銀行記念資料館にて、オールロマンズ事件や返し政策の研修	奈良・京都	8月
8	東 中	北沢秀忠	人間関係づくりの研修	関東方面	9月頃
9	井上小	小林理恵	授業にリトミックをとり入れるワークショップ	筑波大附属小学校	9月頃
10	常盤中	駒村京子	全日本音楽教育研究会 兵庫大会視察 中学校における鑑賞指導について	神戸	6/20・21
11	高山小	小林和子	教育課程全般の視察研修	富山県 堀川小学校	10~11月頃
12	小布施中	新井秀和	江戸時代、天下の台所と言われた大阪城、大阪平野における水運の発達と都市開発について、歴史・現在の視点で検証したい。	関西	8月
13	小布施中	清水まゆみ	生徒が表現したい意欲を持ち、音楽表現に結びつく指導のあり方	東京	8月または 10~11月
14	高山中	宮本千苗	吹奏楽部・合唱部で名を馳せている宮城県仙台市八軒中学校の音楽指導の取り組みに学ぶ。	宮城県	9~10月
15	高山中	松村 勉	関プロの技術・家庭科大会参加	千葉県	10/24・25